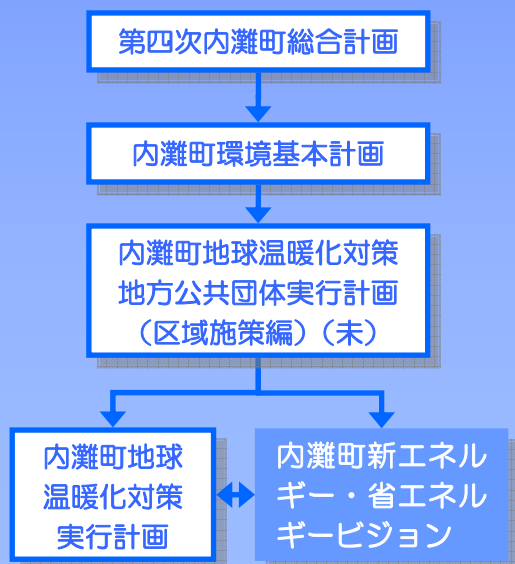


地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業

内灘町地域新エネルギー・ 省エネルギービジョン (概要版)

内灘町地域新エネルギー・省エネルギービジョンの策定の趣旨



世界のエネルギー供給量は依然として増加傾向にあり、世界経済はいまだに石油を中心とした化石燃料への依存から脱却できずにいます。

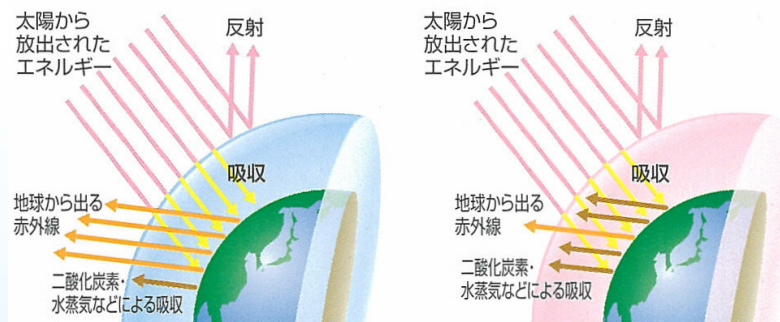
しかしながら、化石燃料は限りある資源であり、またその無秩序な使用は地球温暖化など地球環境にとって脅威を与えるものとなりつつあります。もとより我が国は、エネルギー供給量の80%を海外からの輸入に頼っており、エネルギーの安定供給と消費量の節減、さらには代替エネルギーの開発・普及と省エネルギー活動の推進は、今後の国の発展にとって喫緊の課題となっています。

こうした中、内灘町では、良好な環境の保全に向けた施策を総合的・計画的に進めていくため「内灘町環境基本計画」を策定し、「人にも地球にも優しい内灘」を環境未来像として、風力発電所の建設や小中学校全校への太陽光発電システムの導入、あるいは太陽光発電設置住宅への助成など各種エネルギー施策を展開しています。

このような町の実施をより発展させ、諸施策の方向性をさらに明確に示すことにより、町民・事業者・町の協働のもと地域からエネルギー問題の解決に積極的に携わっていくことを目的に、このたび「内灘町地域新エネルギー・省エネルギービジョン」を策定しました。

地球温暖化問題とエネルギー問題

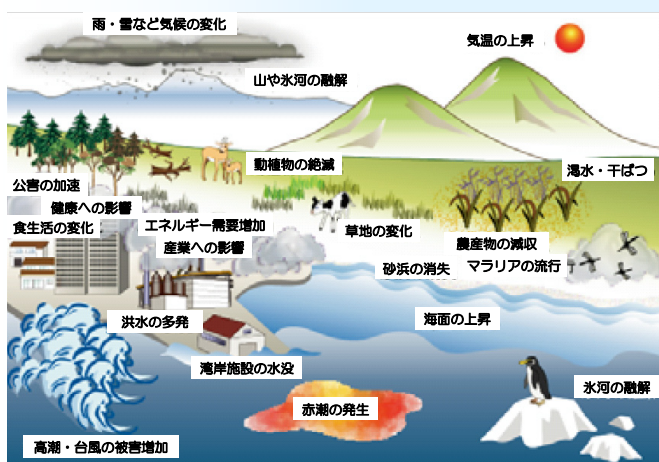
太陽から地表に届いたエネルギーは地表を暖め、その熱は宇宙に逃げていきますが、CO₂などの温室効果ガスはこの熱を地球外に出て行きにくくする性質があります。このためCO₂などの温室効果ガス濃度が増すと地球の気温が上昇することになり、これを地球温暖化と言います。



現在の大気

温室効果ガス濃度が増加した時

(出典)「New Energy Now 2006」((財)新エネルギー財団)



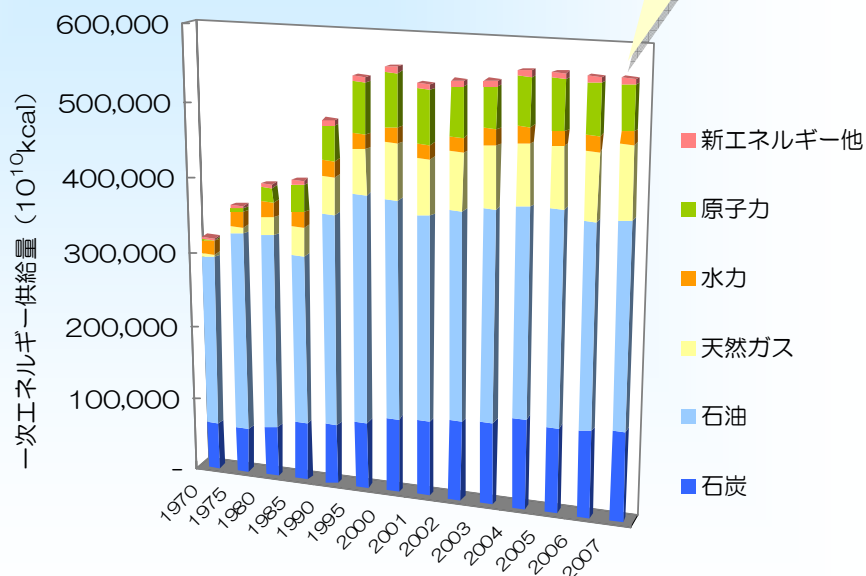
(出典)「新エネルギーガイドブック 2008」

(NEDO 技術開発機構、平成 20 年 6 月)

地球温暖化が進行すると、地球規模の降水パターンの変化などといった気候の変動や氷河の融解、海水面の上昇など、人類の生活環境や動植物の生息環境に広範囲で深刻な影響が生じる恐れがあり、世界規模で大きな問題となっています。

我が国における一次エネルギー供給量は長期的には増加傾向にあり、石油を中心としたエネルギー供給の構造は依然として続いています。

新エネルギーの導入も一次エネルギー供給全体に対して 2007 年度で 3.1% (地熱など含む) (エネルギー白書 2009 年版) にとどまっています。



(出典)「エネルギー・経済統計要覧 2009 年版」

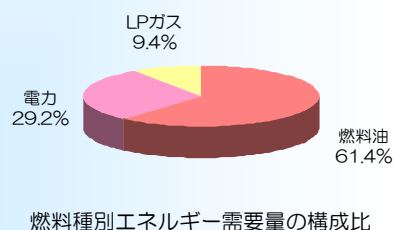
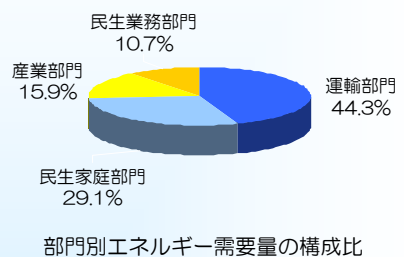
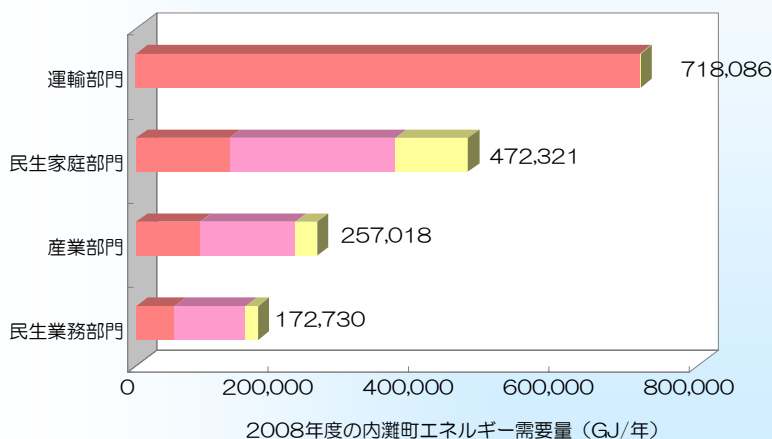
((財)省エネルギーセンター、平成 21 年 2 月)

エネルギー消費構造（2008 年度）

内灘町の 2008 年度のエネルギー需要量は 1,620,155GJ/年と推計されました。部門別では運輸部門が最も多く（44.3%）、次いで民生家庭部門（29.1%）、産業部門（15.9%）、民生業務部門（10.7%）でした。燃料種別では、燃料油（61.4%）が最も多く、次いで電力（29.2%）、LP ガス（9.4%）でした。運輸部門の燃料油需要量は、総エネルギー需要量の 44%を占めています。このため、部門別需要量では運輸部門の割合が、燃料種別需要量では燃料油の割合が高い結果となりました。

※ 需要量が多い順に表示。

■ 燃料油 ■ 電力 ■ LPガス



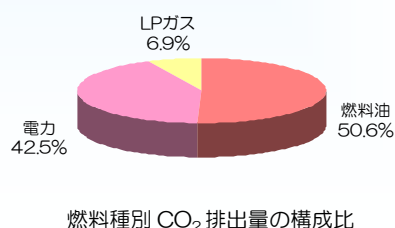
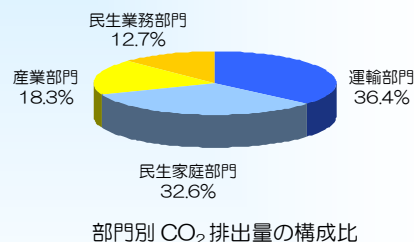
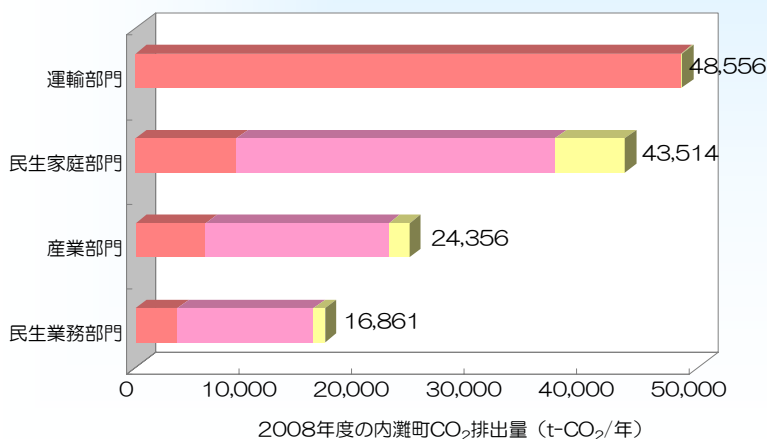
- 産業部門** 製造業、農林水産業、鉱業、建設業におけるエネルギー消費。
- 民生家庭部門** 家庭におけるエネルギー消費（自家用運輸を除く）。
- 民生業務部門** 事務所ビル、店舗、病院、公共施設等におけるエネルギー消費（事業所用運輸を除く）。
- 運輸部門** 人・物の輸送及びこれに付帯する業務におけるエネルギー消費。

CO₂ 排出量（2008 年度）

内灘町の 2008 年度の CO₂ 排出量は、133,287t-CO₂/年と推計されました。部門別では運輸部門が最も多く（36.4%）、次いで民生家庭部門（32.6%）、産業部門（18.3%）、民生業務部門（12.7%）でした。燃料種別では、燃料油（50.6%）が最も多く、次いで電力（42.5%）、LP ガス（6.9%）でした。

※ 排出量が多い順に表示。

■ 燃料油 ■ 電力 ■ LPガス



新エネルギーの賦存量

新エネルギーとは、「技術的に実用化段階に達しつつあるが、経済性の面での制約から普及が十分でないもので、石油代替エネルギーの導入を図るために特に必要なもの」であり、太陽光発電、風力発電などが該当します。



太陽光発電

太陽のエネルギーを電気に変えて利用します。



太陽熱利用

太陽のエネルギーを温水に変えて利用します。



風力発電

風の力で発電機を回し、電気を起こします。



バイオマス熱利用

植物などの生物体（バイオマス）を燃料とし、電気や熱に変えて利用します。



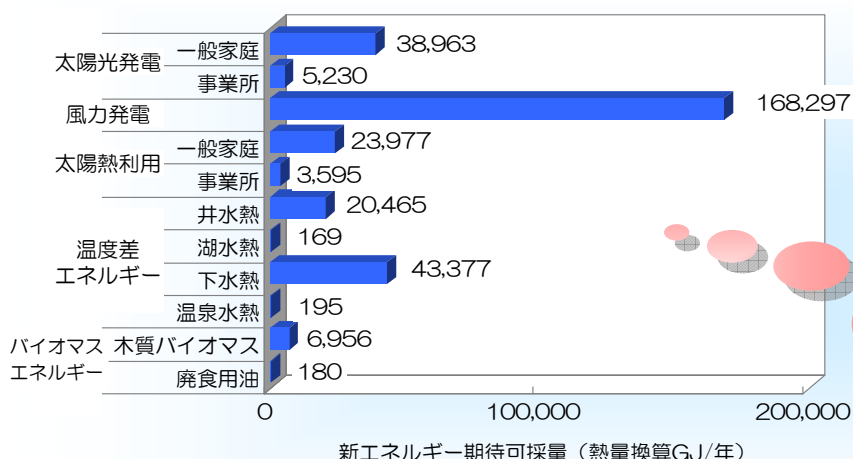
温度差熱利用

井戸水、下水処理水、温泉水など外気と温度差のあるものを熱源とし、冷暖房や給湯に利用します。



バイオディーゼル燃料製造

天ぷら油などの植物性油を改質した軽油代替燃料をバイオディーゼル燃料といいます。

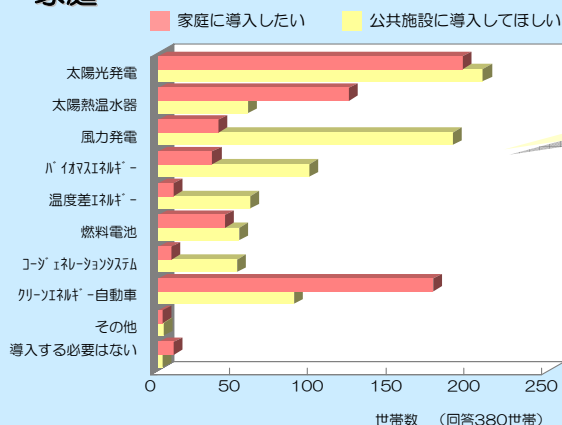


地域の自然条件が持つ可能性を推計した賦存量に、土地利用状況や経済性などといった制約条件を考慮してどれくらい活用できるか推計したものを **期待可採量** といいます。

新エネルギーの期待可採量は 2008 年度内灘町エネルギー需要量の 19%に相当

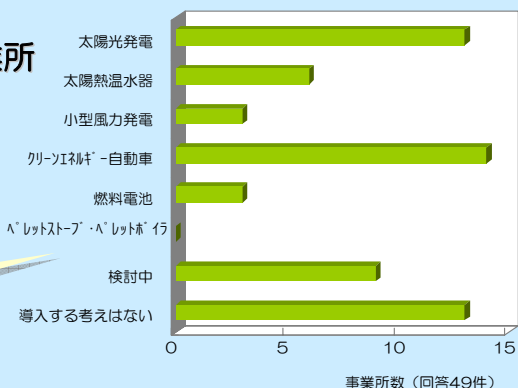
新エネルギー設備の導入意向（アンケート調査結果）

家庭



家庭に導入したいものは太陽光発電やクリーンエネルギー自動車が多く、公共施設に導入してほしいものは太陽光発電や風力発電が多い結果となりました。

事業所



事業所では、太陽光発電やクリーンエネルギー自動車の導入意向が高い結果となりました。

省エネルギー可能量

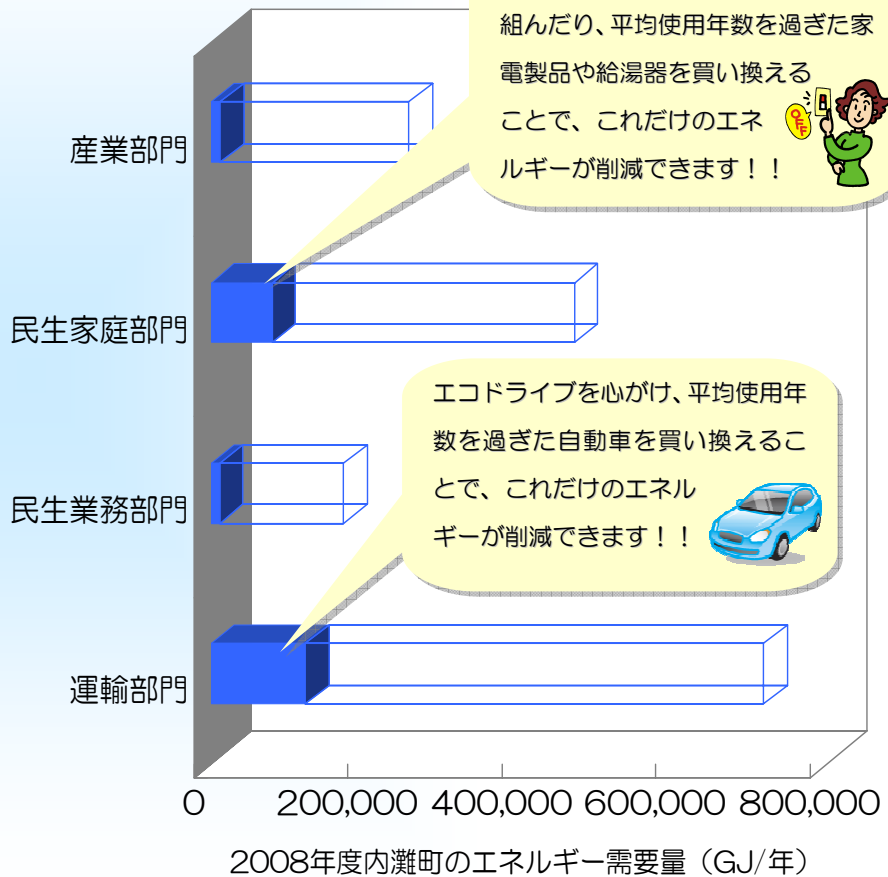
省エネルギー行動や家電製品、自動車などの買い換えによりエネルギーの削減が可能な量を **省エネルギー可能量** といいます。

12,337GJ/年
(4.8%)

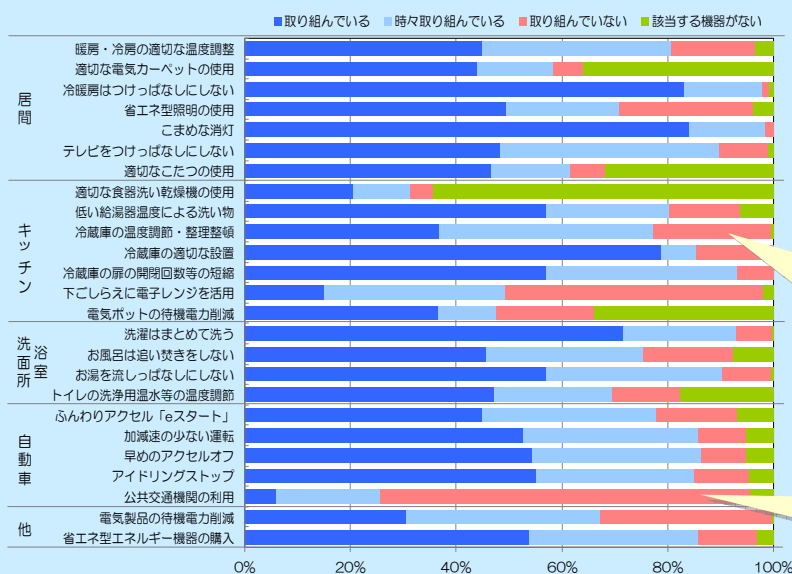
79,065GJ/年
(16.7%)

11,746GJ/年
(6.8%)

122,489GJ/年
(17.1%)



家庭での省エネルギー行動への取り組み状況（アンケート調査結果）



時々取り組んでいる
取り組んでいない
この分だけエネルギー削減の余地が残されています！！

たとえば冷蔵庫の温度調整・設置場所・開閉・整理整頓等につづけるだけで167kWh/年(約3,700円)の電力削減になります。

公共交通機関の利用が少ないことが分かります。

導入目標

エネルギー種別の導入目標

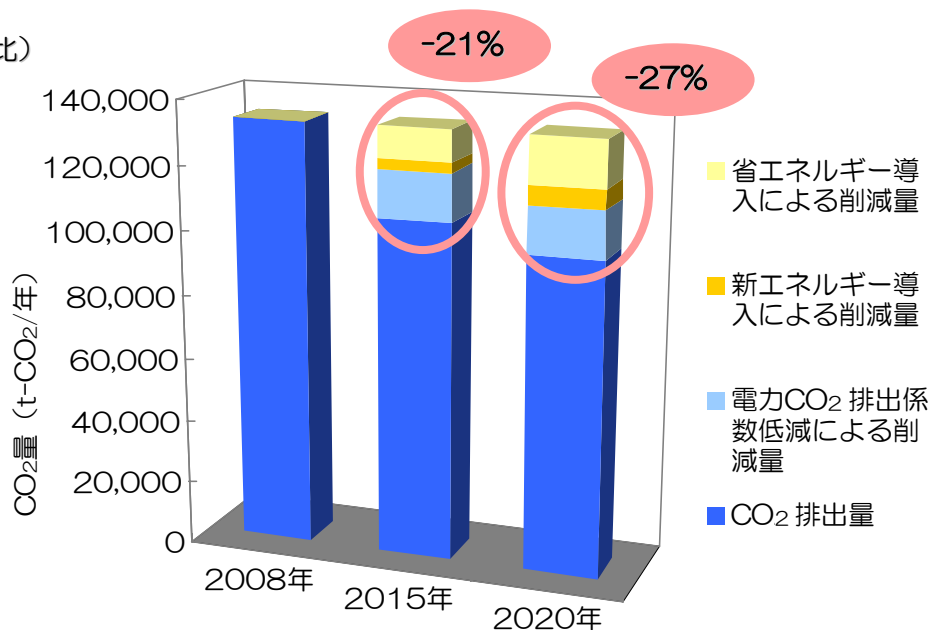
項目	2015 年	2020 年
太陽光発電（一般家庭）	<新築>400 戸 <既築>80 戸	<新築>780 戸 <既築>360 戸
太陽光発電（事業所）	30 件	60 件
風力発電（2,000kW 規模）	1 台	2 台
太陽熱温水器（一般家庭）	<新築>170 戸 <既築>80 戸	<新築>340 戸 <既築>360 戸
太陽熱温水器（事業所）	15 件	30 件
温度差エネルギー	<井水熱利用冷暖房システム>10 件 <温泉水熱>195GJ/年	<井水熱利用冷暖房システム>20 件 <温泉水熱>195GJ/年
バイオマスエネルギー	<公共施設>ペレットボイラ 2 台 <一般家庭>ペレットストーブ 50 台	<公共施設>ペレットボイラ 5 台 <一般家庭>ペレットストーブ 100 台
省エネルギー	<省エネルギー行動> 省エネルギー可能量の 80%達成 <買い換えなど> 省エネルギー可能量の 50%達成	<省エネルギー行動> 省エネルギー可能量の 90%達成 <買い換えなど> 省エネルギー可能量の 90%達成

新エネルギー・省エネルギーの導入目標量

項目	2015 年		2020 年	
	導入目標量	2008 年度エネルギー需要量に対する割合	導入目標量	2008 年度エネルギー需要量に対する割合
新エネルギー導入目標	33,020 GJ/年	2.0 %	71,728 GJ/年	4.4 %
省エネルギー導入目標	132,450 GJ/年	8.2 %	191,970 GJ/年	11.8 %
合計	165,470 GJ/年	10.2 %	263,698 GJ/年	16.2 %

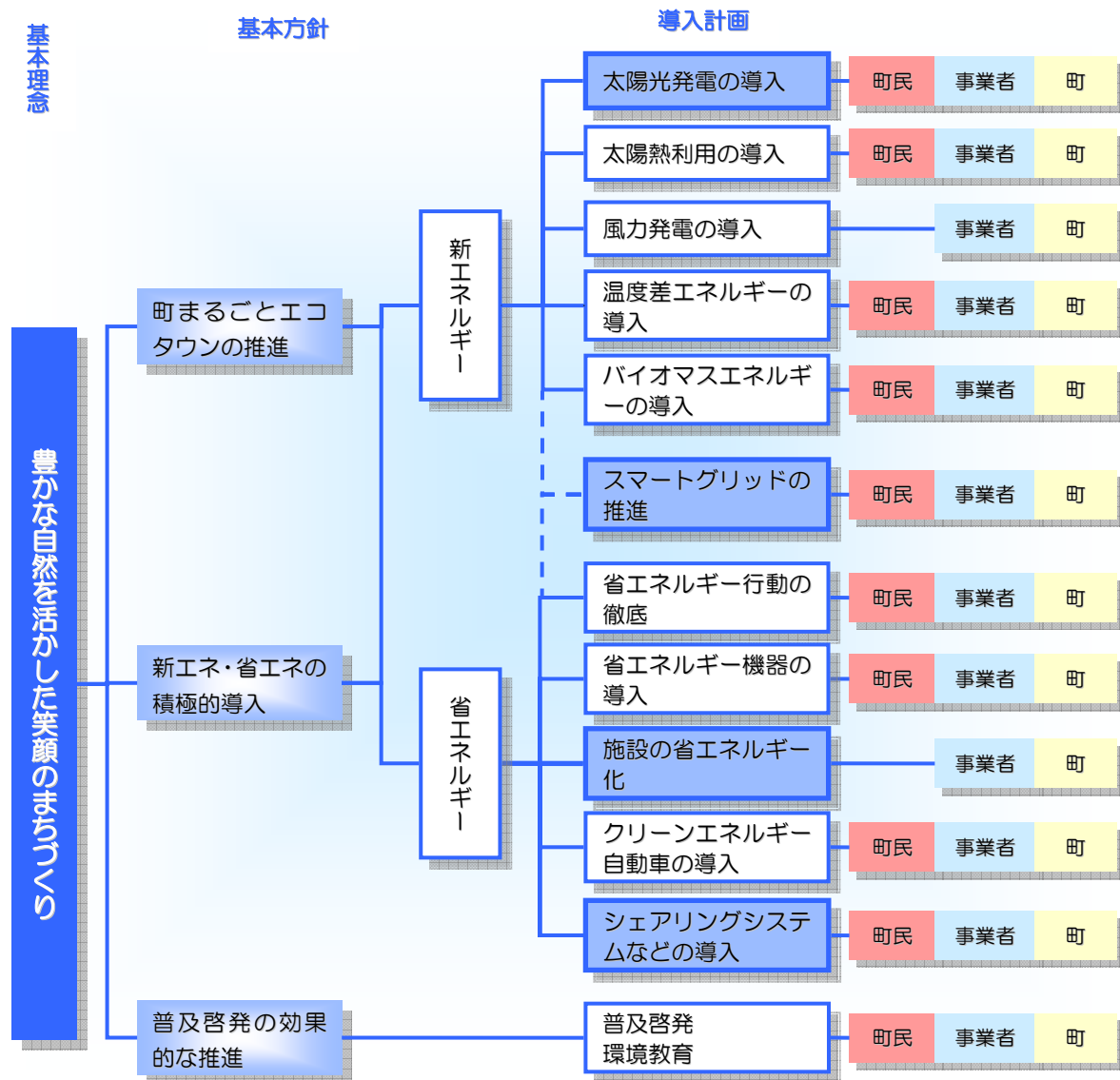
CO₂ 削減量（2008 年比）

2015 年度、2020 年度のエネルギー需要量を 2008 年度と同等と仮定しても、主に新エネルギー・省エネルギーの導入を進めることで、2015 年は 21%、2020 年は 27% の CO₂ が削減できます。



基本理念・基本方針・導入計画

本町では、「豊かな自然を活かした笑顔のまちづくり」を基本理念に、太陽光発電の導入、スマートグリッドの推進、施設の省エネルギー化及びシェアリングシステム等の導入を重点プロジェクトとして、新エネルギー及び省エネルギーの導入を積極的に進めていきます。



太陽光発電の導入

本町では平成 17 年度より実施している「内灘町住宅用太陽光発電システム設置費補助制度」を継続し、一般家庭や事業所への太陽光発電の導入を促進すると共に、公共施設の改修・更新の際には積極的な導入を図ります。

スマートグリッドの推進

「スマートグリッド」とは、電力供給網にリアルタイム監視機能やデジタル通信関連の機能を組み合わせ、電力配電またはガス供給の最適化を図るものです。まだ実証段階の技術ですが、本町では全国に先駆けて、この「スマートグリッド構想」の実現を目指し、協議会などの設置を検討していきます。

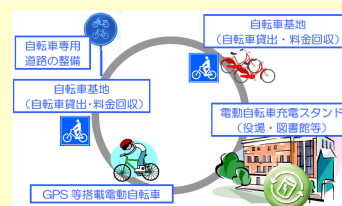


施設の省エネルギー化

エネルギー需要量の多い公共施設の省エネルギー診断を実施し、公共施設全般での効果的な省エネルギー改修を検討していきます。

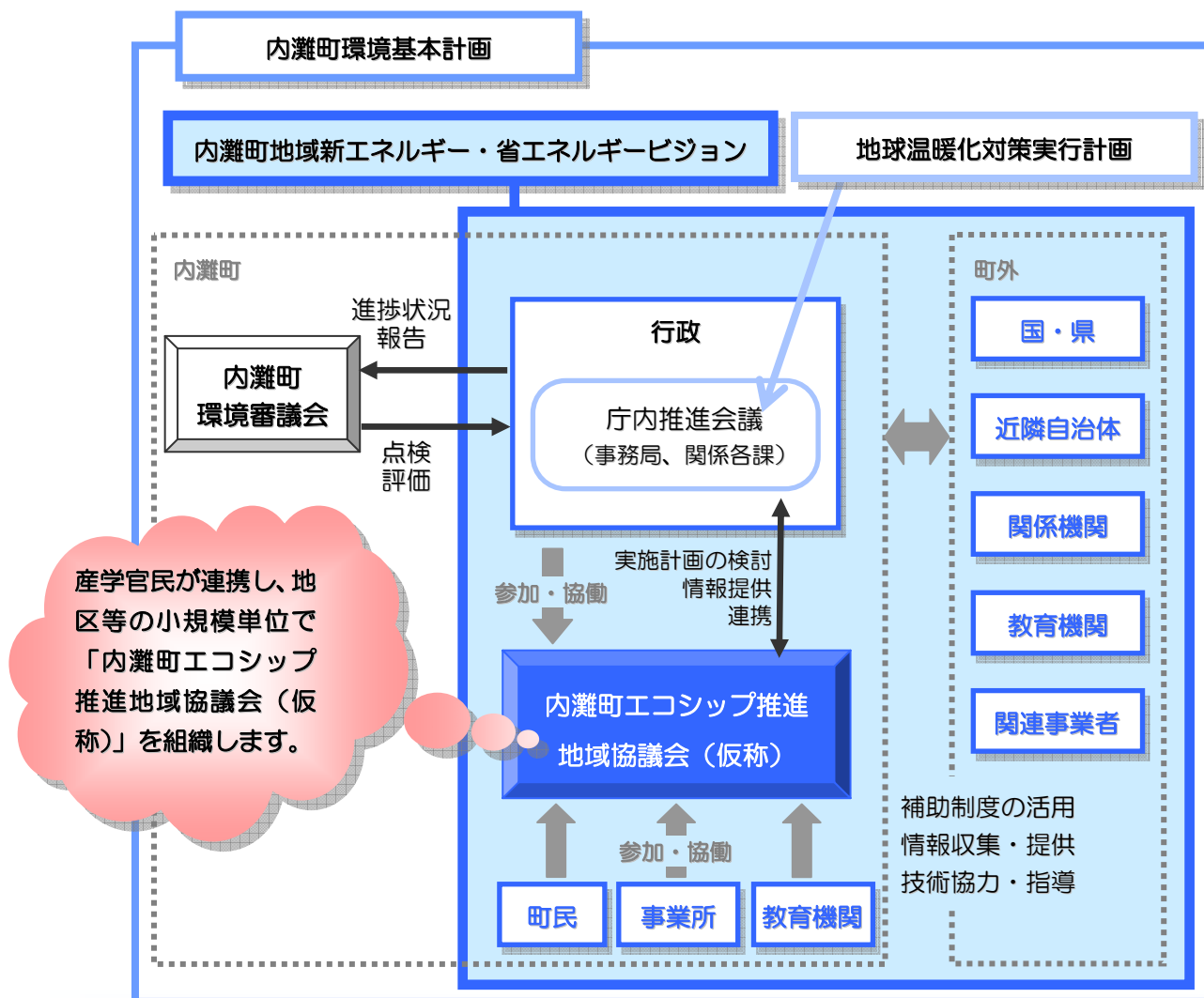
シェアリングシステムなどの導入

本町は運輸部門からのCO₂排出量が最も多く、また、公共交通機関の利用も少ないことから、1台の自転車または自動車を登録した複数人で共用する「シェアリングシステム」の導入を検討していきます。



推進方策

本ビジョンの推進にあたっては、町民、事業者、町（行政）が協働して取組を進める必要があります。このため、下図に示すような推進体制をとることによって、計画の効果的な推進を図ります。



内灘町 町民福祉部 環境政策課

〒920-0292 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 2 番地 1

電話：076-286-6712 ファックス：076-286-6704

メールアドレス：enviro@town.uchinada.lg.jp

ホームページ：http://www.town.uchinada.lg.jp/webapps/www/index.jsp